

## 統一労組懇

1989.11.17まで

軍事費を削って…。大企業の横暴規制…。  
のスローガンを一貫してかかげて

全労連とともに、一九八九年十一月十七日に愛労連が結成されました。

この愛労連に、愛知統一労組懇（愛知統一戦線促進労働組合懇談会）の運動が引き継がれることによって、愛知統一労組懇は十四年間におよび歴史的役割を終え、発展的に解散しました。

一九七六年四月一〇日

## 愛知統一労組懇を結成

統一労組懇の結成は、一九七四年十二月五日。労働運動の階級的潮流が、要求実現をめざす労働組合運動の階級的強化のためには、真の労働戦線の統一と革新統一戦線の実現をめざすことが必要として、六九年の「全民主勢力の統一のための三八単産アピール」、七〇年の「全民主勢力の統一促進労働組合懇談会」の発足、七二年の「労働戦線統一についての

七項目提案」を経て結成されました。

統一労組懇は、その運営要綱で明らかにしているように、「戦後労働運動の階級的民主的潮流の伝統をうけつぎ、革新統一戦線の結成、情勢にふさわしい問題提起、大衆的共同行動の提起、全国的な、全産業的な強固な団結をつくりあげるために活動する」との基本方向のもとに、結成当初から労働者・国民の経済的・政治的要求の実現、労働戦線の統一と階級的ナショナルセンター確立、革新統一戦線の結成をめざして活動してきた組織です。



愛知統一労組懇は、この統一労組懇の地方組織結成の呼びかけに応えて、一九七六年四月十日に二〇組合の参加のもとで結成されました。

よびかけ人10氏(アイウエオ順)

内田 基大(全日自労愛知県支部委員長)

小川 春水(名古屋水道労組委員長)

大塩順一郎(全港湾名古屋支部委員長)

鈴木 正明(愛知地方建設労組委員長)

中原東四郎(自治労愛知県本部委員長)

永井 清明(愛知私教連委員長)

中者 輝治(愛知県国公共闘会議議長)

原 哲郎(名古屋市立高教組委員長)

広田 利雄(全自運愛知地方本部委員長)

宮崎 雄介(愛知県高教組委員長)

愛知のたたかう仲間の期待をうけて誕生した愛知統一労組懇は、結成と同時に、国民の大きな怒りとなっていた田中首相によるロッキード疑獄に対して、「金権・戦犯・売国政治を打破するため労働者のみなさんに訴える」というアピール採択活動をスタートにして、「愛知における統一戦線をめざすシンポジウム」や「国民春闘討論集会」などの活動をしてきましたが、七〇年代は主に学習・交流会などが中心的な活動でした。

## 労働戦線の右傾化が加速

統一労組懇の

## 体制と運動を強化

しかし、反共・安保容認の「社公合意」によって、総評が八〇年代に入ると右転落をはじめました。総評に追随する愛労評も同じように事実上、安保容認・労使協調の路線を強め、ローカルセンターとしての機能を急速に失っていきました。

こうした状況のもとで、統一労組懇は七九年に「労働戦線の統一・真のナショナルセンターのあり方」をめぐる全国討論をよびかけるとともに、体制と運動を強化してきました。愛知統一労組懇も学習・交流中心の活動から、情勢にふさわしい運動と要求実現をめざす運動体へと移行することになり、愛知における労働運動の民主的発展と要求実現をめざす運動の中心的な役割を果たしてきました。

労働者・国民の要求実現へ

## いつも先頭で奮闘

統一労組懇が、その役割を終えるまでの、とりくんできた運動を振り返ってみると、国民春闘の新しい流れをつくりだ

す運動をはじめ、「未組織総行動デー」のとりくみ。全県下を視野にいった、軍事費を削つてくらし、福祉・教育の充実を求める活動。八四年の「七・二九中央大集会」への四〇〇〇人の代表派遣をはじめ、くりかえしおこなわれた中央集会・国会要請行動への代表派遣での中心的な役割。依佐美基地を包囲した、トマホーク来るな「人間のくさり」。大企業の横暴を規制し、社会的還元を迫るたたか



いとして継続して追求した「トヨタ総行動」。革新名古屋市政の継続発展と市長選挙のとりくみ。国鉄「分割・民営化」反対闘争。大型間接税・消費税反対闘争。老人医療有料化反対のとりくみなど平和と民主主義擁護のたたかいへ、労働者・県民の権利とくらしを守るたたかいへと、反動政治がもたらすときどきの国民・労働者いじめの悪政に対して、多くの労働者・国民の要求を実現するための共同をつくりあげるために、積極的な活動を展開してきました。

## たたかう運動の伝統を 愛労連へバトンタッチ

このように愛知統一労組懇運動を発展させ、愛労連に運動を引き継ぐことができたのは、「資本からの独立・政党からの独立・一致する要求にもとづく行動」の三原則を大切にしながら運動を展開してきたこと。安保優先と大企業本位の自民党政治が労働者・国民のくらしのあらゆる分野で大きな矛盾をつくりだしているもとで、平和とくらしを守るために常に先頭にたつて奮闘してきたことによるものです。